

Step3-2 さらに加えるべき配慮

1 トイレの工夫

問題点と現状

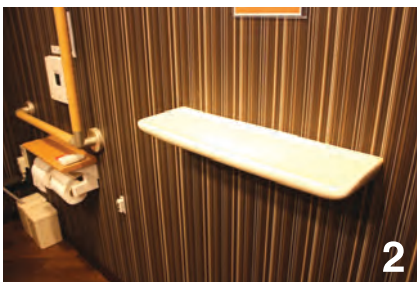
- 外出にあたり、車いす利用者等にとって、トイレの存在は重要である。しかし、使いたい時に使えるトイレはまだ少ない。
- 操作ボタンが予想がつかない場所にあたり、手かざしセンサーは、視覚障害者にはわからず、利用できないことがある。
- 小規模店舗では、乳幼児対応の設備が女性用トイレに限られることがあり、男性が1人で乳幼児を連れてくる場合は利用できない。
- だれでもトイレ内のおむつ交換ベッドが引き出されたままにしてあると、車いす使用者が入れない。

整備の考え方

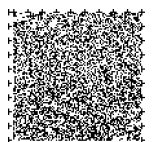
- (1) 可能な限り広いトイレを確保し、荷物や杖を置く棚やフックなどをつける。
- (2) トイレの操作ボタンは、JIS S 0026の操作部の配置ルールに従って設置する。
- (3) ベビーチェア、おむつ交換ベッドは、男女の両トイレに設置する。また、これらの使い方などの説明をわかりやすく表示する。

整備事例

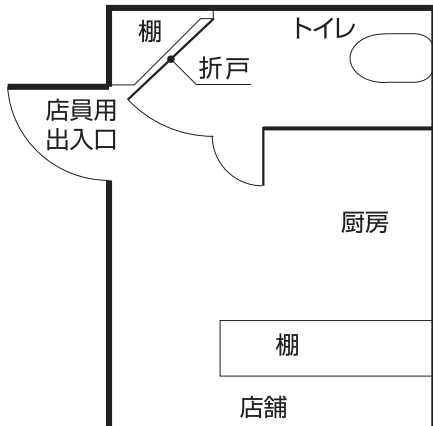
荷物や杖を置く棚、フックが使いやすい位置に設置してある。



JIS規格に沿った配置をしているトイレ操作盤



コラム 小規模店舗でのトイレの工夫事例

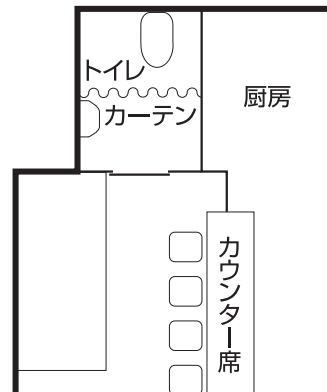


狭いカフェの奥にやや広めにトイレが設置されている。入口を2つのドアで大きく開くようにして、車いす使用者が出入りできるように工夫している。

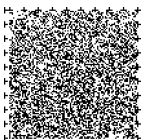


3

狭いトイレでも、必要な時におむつ交換の台をつけられるように工夫している。荷物が置ける棚もある。



小規模な居酒屋だが、車いす使用者等が使えるように広いトイレを設置している。介助者が中に一緒に入れるようにカーテンもつけている。なお、カーテンがとっさに手すり代わりに使われることがあるので、倒れたり外れないように設置する必要がある。



コラム 一般トイレの工夫事例



着替え時に利用できる台がある。ベビーカーも一緒に入れる広さがある。



折戸はカギがかかっていない時は開いているので、開閉の小さい表示が見えにくい人や、ノックの音が聞こえない聴覚障害者にもわかりやすい。



子供用便器と低い洗面台がついている。



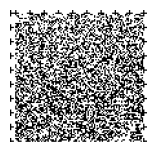
引き出して使うおむつ交換ベッド。使用後は必ず元に戻すことが大切である。



子供用のトイレは、上から同伴者が中の様子を見ることができる。



壁面と便器との色の明度差が大きいため、弱視の人にもわかりやすい。



2 使いやすいエレベーター

問題点と現状

- 視覚障害者（弱視者）は、色相や明度、照明で空間の認識のしやすさが異なる場合が多い。
- 聴覚障害者は視覚を中心に情報を得るので、一目でわかるはっきりしたデザインや表示を求めている。
- 聴覚障害者は、緊急時にインターホンでは対応ができないので、エレベーターに1人で乗ることに抵抗を感じている人がいる。

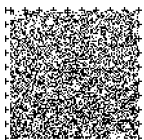
整備の考え方

- (1) エレベーター自体を見つけやすくする。
- (2) エレベーター内のサインをわかりやすくする。
- (3) ボタンが大きく、わかりやすいものとする。
- (4) 扉にガラス窓を設け、エレベーターの中が見えるようにする。
- (5) 音声による案内をつける。
- (6) モニターカメラを設置する。

整備事例



ショッピングセンターのエレベーター。乗降口の周りの色を濃くして、見つけやすくしている。階数表示を大きくわかりやすくしている。





スーパーマーケットのエレベーター内の表示。大きくコントラストがはっきりしており、文字も読みやすい書体を使用している。



2



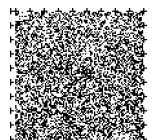
3

押す前と、押した後の両方の状態が見やすいエレベーターのボタン



4

エレベーターのカゴ内が見えるようになっているエレベーターの扉の例。中が見えるガラス張りのエレベーターは、防犯対応とあわせ、非常ボタンのインターホンが使えない聴覚障害者にとって安心感が高まる。



3 階段

問題点と現状

- 視覚障害者（弱視者）や高齢者には、すべての面が同じ色の階段では段鼻が見えにくく、段差に気づきにくい。

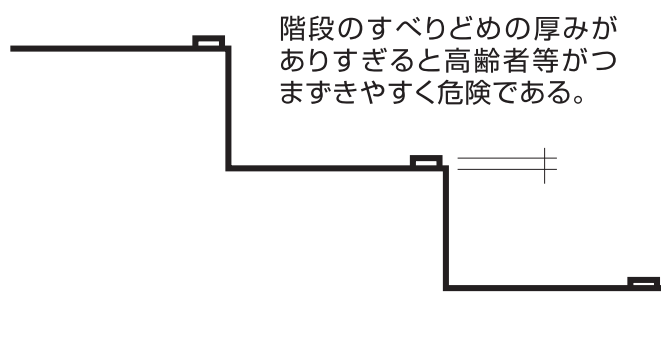
整備の考え方

- (1) 段鼻を目立つようにする。

整備事例



段鼻を赤くした白い階段。段を容易に識別できる。



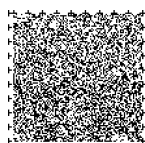
4 出入口の工夫

問題点と現状

- 車いす使用者は、テーブルやいすの配置、段差の有無など店内の様子が外から見てわからないと入りにくい。
- だれでもトイレや筆談器などの配慮がある場合は、そのことを入口にわかりやすく示さないと、必要としている人も活用できない。

整備の考え方

- (1) どんな物が売られているのか、何を扱っているのかなど、店舗の内部の様子が外からわかるような工夫をする。
- (2) 入口に電話番号、メールアドレスなどを表示しておく、車いす使用者等が入りにくい時に、電話で対応を求めることもできる。
- (3) だれでもトイレや筆談器の設置、手話通訳ができる店員がいるなどの対応ができることを、入口などにわかりやすく表示する。





外から見てもわかる写真付メニューは、すべての人にわかりやすい。



外からテーブル配置などがわかると、車いす使用者も入りやすい。



補助犬同伴の啓発マーク。マークの有無にかかわらず、補助犬受け入れは法律で義務づけられているが、店側の意識を示すことでより利用しやすくなる。



シンボルマークと筆談器があることを組み合わせて示している。



手話で対応できることをわかりやすく示している。



押しボタンがあることをわかりやすく示している。



車いす使用者等も安心して利用できることを入口に表示している。

